

奥様救出編

- トラは死して皮を残し、社長は死して借金を残す……じゃ困ります！

どっちがエライと思う？



- もしも、借金を残したままで亡くなってしまったとき、社長の奥さんが、社長の奥さんでいられるためには、なにが必要か？





よく、「トラは死して皮を残し、中小企業の社長は死して借金だけを残す」と言われます。冗談で「トラと社長とでは、どっちがエライか」なんていう話もします。



せめて、このくらい考えておかないと社長さん、失格ですよ!

これは、日本の中小企業の経営方式が、自己資本よりは借入金に依存して行なわれているからです。普段、社長の奥様が、取引先や金融機関から大事にされているのは、社長が元気で会社を経営しているからです。「社長の突然の死亡」なんてことが起これば、お通夜のその晩に借入金の返済や商品代金の支払いを求められたりすることもあります。しかし、それに備えて、「必要な保障額」の生命保険に加入していれば、そんな心配もなくなります。

● 借金したら、最低2倍の生命保険に入る!



社長として、いくら保険に入っていればいいのか、分かりますか? この点については後で詳しく触れますが、この頁だけで考えた場合には、借入金や支払い債務の残額の最低2倍は入っていなければ、「必要な保障額」とはいえないでしょう。